

竹富島のまち（島）づくり

これまで、そしてこれから

アフターコロナに向けて
2022(令和4)年7月



生命力旺盛な「ハカラメ」

竹富島ってどこにあるの？



石垣島から

那覇	●直線距離 400km
台北	300km
鹿児島	1000km
東京	2000km
北京	2000km
福州	300km

●飛行機で

那覇	1時間
東京	2.5～3時間

●船で

※宮古島と沖縄本島の間は、
日本で唯一の「近海」

石垣島離島ターミナルからフェリーで15分
周囲9km 面積5.4km²
住民は 184世帯 335人(現在)

西

南



北

「竹富エビ養殖」は島の南側に、
南東側の「星のや竹富島」が着工前の写真

東

島の歴史

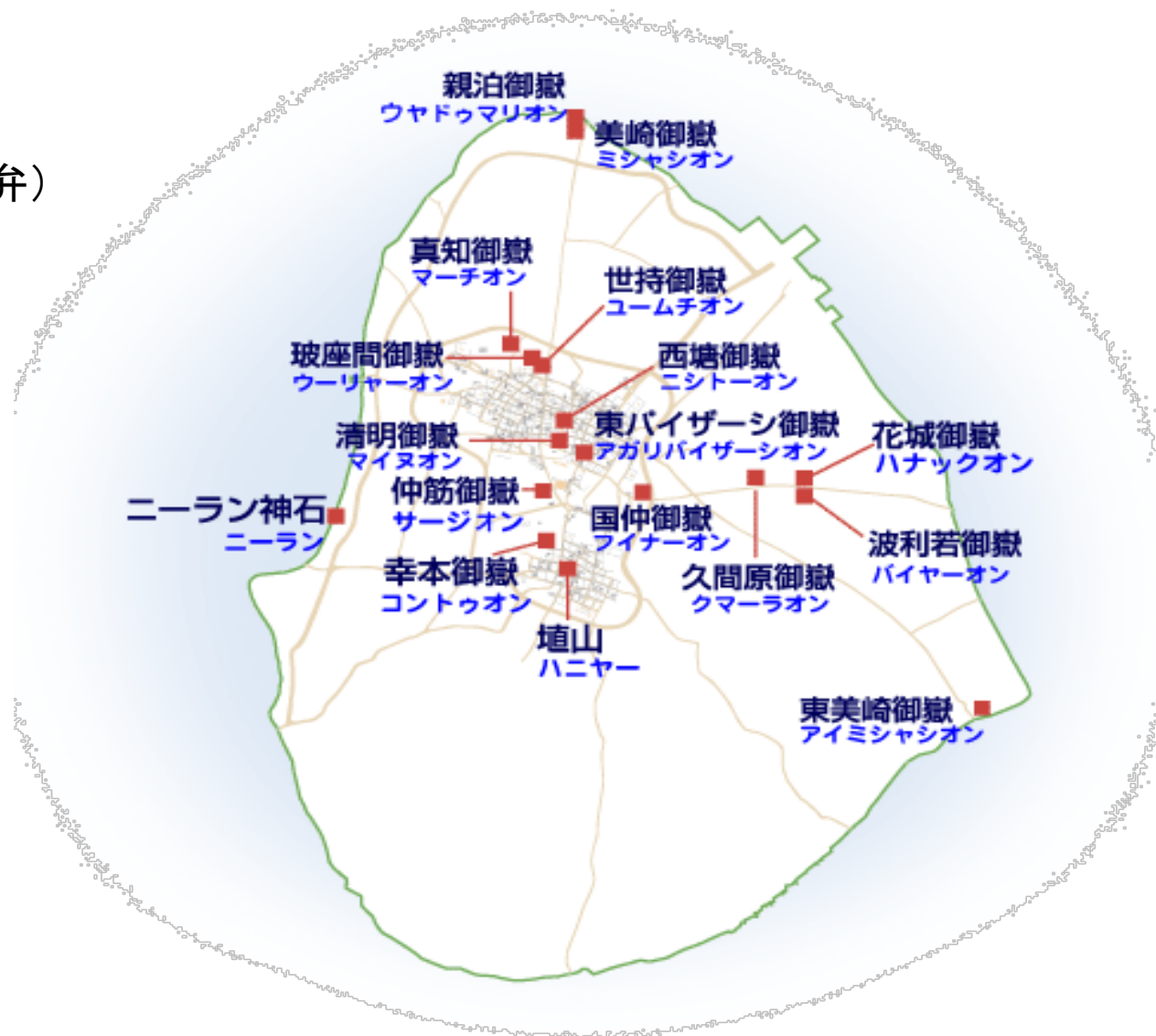
- 10C 前後 竹富島への移住がはじまったと考えられる
- 13C 頃 他金殿を首長とする集団が新里村を建てたと伝わるのはその頃。
- 1500 琉球王国軍の総大将・大里親方が竹富島の西塘少年を首里に連れてゆく
- 1524 西塘、琉球王府より竹富大首里大屋子を授けられ、竹富島に蔵元を置く
- 1543 その頃、西塘、蔵元を竹富島から石垣島へ移す
- 1609 薩摩藩の侵攻。与論島以北は琉球から分離され薩摩藩の直轄地とし、
沖縄本島以南を薩摩藩支配下の琉球王国とする
- 1738 百姓が貫家を造ることを禁止し、掘立家にするよう命じる
- 1771 八重山に大津波来襲（明和の大津波）
- 1865 場儀納屋大家（バギナヤーフイヤ）建築、竹富島で現存最古の茅葺民家
- 1868 明治維新
- 1871 廃藩置県。琉球は鹿児島県の管轄となる
- 1879 琉球処分。琉球王国廃止、沖縄県となる
- 1892 大川尋常小学校竹富分教場設立
- 1903 人頭税廃止
- 徴兵令適用される。竹富分校で最初の女子学生が卒業
- 東金城家フイヤ（母屋）建築。（竹富島で現存最古の瓦葺き民家）

御嶽

ウタキ
オン(竹富島弁)

その何もないということの素晴らしさに私は驚嘆した。これは、私にとって大きな発見であり、問題であった。

岡本 太郎



- 1908 島嶼町村制施行、八重山村となる
- 1914 八重山村は、石垣・大浜・竹富・与那国に分村、竹富島に竹富村役場が設置
- 1917 竹富同志会設立。高等科設置を決議する。
- 1920 上間廣起、竹富村初の民選村長に選出される。
- 1938 竹富村役場を石垣島に移転
- 1939 第二次世界大戦勃発
- 1944 沖縄からの疎開船対馬丸撃沈
- 1945 沖縄守備隊全滅（沖縄県民の約 3 人に 1 人が戦死）
広島・長崎原爆投下
第二次世界大戦終結、終戦 沖縄は米国領になる
- 1946 第一次通貨交換 日本円から B 円へ
- 1949 竹富部落会が祭事部を設置し、祭事行事の整理を行う
竹富中学校設立
- 1952 アメリカ政府の出先機関「アメリカ民生府」のもとに「琉球政府」を創設

- 1953 赤山丘を公園として整備する、「なごみの塔」建設
- 1954 竹富製糖所へ交付金支給、製糖工場建設
- 1956 竹富発電所設置
- 1957 「竹富島を守る会」発足
倉敷民藝館外村吉之介、民藝調査実施
- 1958 第二次通貨交換 B 円からドルへ
- 1959 岡本太郎 竹富島来島
- 1960 岡本太郎「沖縄文化論」初出掲載（中央公論連載）
- 1961 簡易水道完成
- 1963 竹富部落会を竹富公民館に改める
竹富島に3箇所 of 牧場完成 島に初めてのハイゼット車導入
- 1964 日本民藝協会全国大会が那覇で開催される 80 人竹富島に来島
- 1969 上勢頭亨、私設・喜宝院蒐集館設立
- 1971 琉球米国軍高等弁務官資金の援助を受けて竹富公民館建設
外村吉之介「古竹富島保存会」設立 清明御嶽再建
- 1972 本土復帰、再び沖縄県となる
第三次通貨交換 ドルから円へ
「竹富島を生かす会」設立
- 1973 岡部伊都子「竹富こぼし文庫」寄贈
有償運送の資格（緑ナンバー）を取り竹富島交通開業

「自然」と否応なく向き合っていた時代

昭和30年代まで半農半漁ほぼ自給自足に近い時代が続く

塩、醤油、味噌、豆腐などは自家製造



早朝、西棧橋で刺網を引き上げ、網から魚を外す夫の両親。沢山捕れた時は、ザルに入れて頭上に載せ、島の中で売り歩いたのだと、94歳になる義母が話してくれた。

フェリーがなかった頃、島独自の定期船

民主党(自由民主党)と社大党(社会大衆党)の2隻で
一日一往復の時間を競い合っていた



1962年就航の若竹丸2号(船主は上勢頭昇氏と前浜重雄氏)

最初の水牛花ちゃん、昭和43（1968）年に来島
島初の民宿「泉屋」が開業した年でもある



前原基男氏 撮影

泉 屋



竹富島に通り詰めた岡部伊都子さん 子供たちのためにと図書とスペースを寄贈



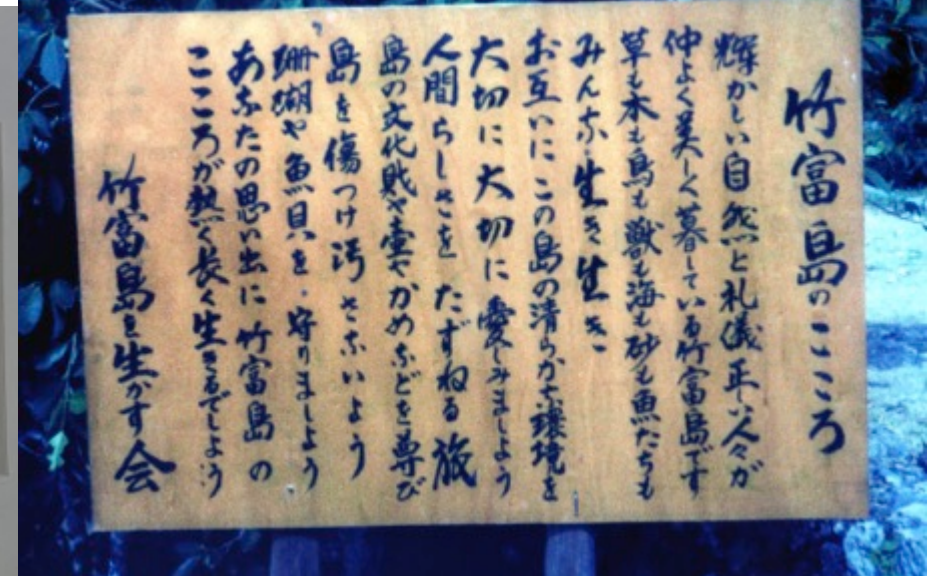
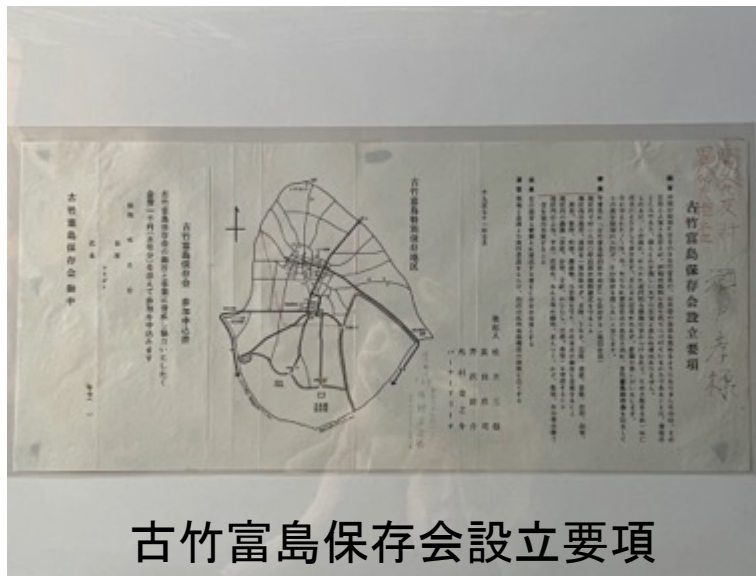
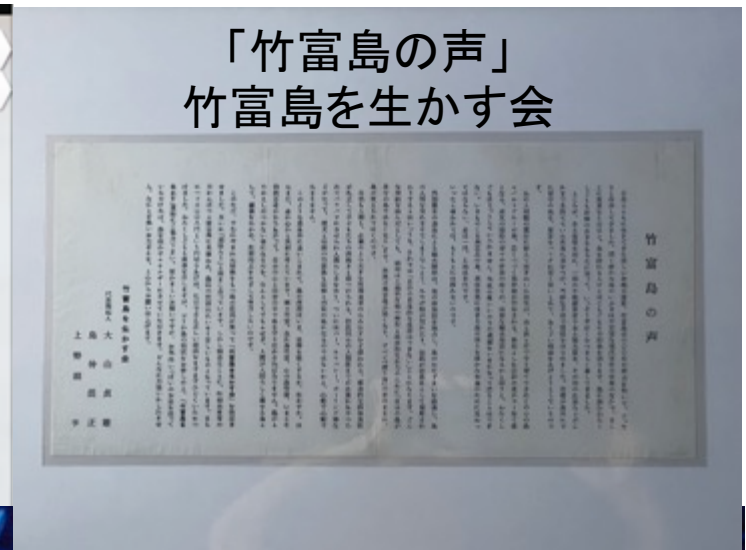
西栈橋から京都へ帰る岡部伊都子

「開発」という言葉は
テドウンムニ(竹富島弁)
には存在しない



1973年 公民館に寄贈されたこぼし文庫

「島を守る」 土地は生活の基盤



- 1975 「観光資源保護財団・(財)日本ナショナルトラストによる町並みの調査
「竹富島観光協会」設立 初代会長狩俣正三郎
- 1977 「種子取祭」国より重要無形民俗文化財に指定
竹富養蚕組合結成
- 1982 「第5回全国町並みゼミ」参加 開発反対決議
- 1987 竹富島憲章制定（反対1名）
竹富島の町並みが国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定
総合保養地行き整備法（リゾート法）施行
- 1988 「第11回町並み保存ゼミナール」全国大会竹富島で開催
竹富町織物事業共同組合設立 初代会長内盛スミ
- 1989 旧通商産業省から伝統工芸品として「八重山ミンサー」が指定
- 1991 沖縄県トロピカルリゾート構想施行
- 1992 島民人口が251名となり最低を記録
- 1996 全国竹富島文化協会設立
- 1998 竹富浄化センター通水式
日本債権銀行破綻 一時国有化
- 2000 竹富島公民館「竹富島まちなみ館」落成。
- 2001 竹富公民館、地縁団体としての法人格を取得
竹富織物共同作業施設 「竹富民芸館」落成
- 2002 NPO たきどうん設立（認証翌年1月） 初代理事長内盛佳美

実は、1970～80年代の方が観光客にとっては
遊びのメニューが豊富だった！

「観光」を、島の基幹産業に成長させるために、必死でチャレンジしていた時代



プレジャーヨット
タイマイ7世
(サイパンで建造1975年就航)



グラスボート
タイマイ3世(1980年就航)
タイマイ5世(1981年就航)
ホエールキング(1999年就航)



レンタサイクル
レンタバイク(50cc)



マリンスポーツ

ダイビング、スノーケリング、
水上オートバイ、水上スキー、
ウインドサーフィン

アジア生まれ
南の水牛での集落巡り
竹富島観光の名物に



花子(1968年来島)から始まった



種子取祭（世持御嶽）

1977年 国の重要無形文化財に指定
まちづくりの潮目が変わる



世持御嶽に向かう側が正面、特等席は敬老席
羽織袴は、今年度の島の幹部（公民館幹部および各支会顧問）



ミルク(弥勒)と子供たち
子供たちにとっては初舞台となる。



奉納芸能の初日は玻座間村、
二日目は仲筋村の責任で行う。
切磋琢磨することで、技能が
落ちない仕組みがそこにある。



石垣市在住の郷友会の会員も、この
日に備えて練習を行い、一緒に参加
する。

竹富島のまちづくり① ソフト編

竹富島憲章

古い集落景観に代表される島の文化
と自然を守り、活かすための理念や規
律、心得。1986年制定

- 「売らない」 島の土地や家などを島外の者に売ったり、無秩序に貸したりしない。
- 「汚さない」 海や浜辺、集落など島全体を汚さない。また、汚させない。
- 「乱さない」 集落内、道路、海岸などの美観を、広告、看板、
その他のもので乱さない。また、島の風紀を乱させない。
- 「壊さない」 独特の農村集落景観、美しい自然環境を壊さない。また、壊させない。
- 「活かす」 伝統的祭事行事を、島民の精神的支柱として、
民俗芸能、地場産業を活かし、島の振興を図る。

1987年に選定された 重要伝統的建造物群保存地区の町並み



「沖縄の原風景」
と呼ばれている赤瓦の屋根群



現存する唯一の茅葺き屋根民家・場儀納家

全国大会を竹富島で開催 (昭和63年・1988年)



上勢頭昇竹富町教育委員長が実行委員長を務め、
全国に支援の輪が広がる

島にはこれまで、たくさんの恩人が存在します。



1988年
倉敷民藝館館長 外村吉之介先生
第11回町並みゼミに参加のため来島
初訪問は1957年(民藝品調査)



1959年11月29日
岡本太郎画伯と敏子
竹富島 喜宝院 上勢頭亨を訪ねる

竹富島のまちづくり② ハード編

島の宝を町、県、国に認めてもらおう！

- 1959 「西塘御嶽」「蔵元跡」県文化財(史跡)に指定
- 1975 島の芸能を国立劇場にて公演
- 1972 「ミーナ井戸」町文化財(史跡)に指定
- 1973 町の無形民俗(舞踊・民謡)に「ジッチュ節等」が指定
- 1977 「種子取祭の芸能」重要無形民俗文化財に指定
- 1987 「町並み」重要伝統的建造物群保存地区に選定
- 1989 「八重山ミンサー」国の伝統工芸品に指定
- 1991 「新里村遺跡」町文化財(史跡)指定
- 1991 「仲筋ぬヌベマの水がめ」町文化財(工芸品)に指定
- 2005 「西棧橋」登録有形文化財(史跡)に登録
- 2006 「なごみの塔」登録有形文化財(史跡)に登録
- 2007 「竹富島の町並み」美しい日本の歴史的風土100選
- 2007 「喜宝院蒐集館の生活用具」が登録有形民俗文化財
- 2007 「小城盛」先島諸島火番盛として国の文化財(史跡)指定
- 2007 「旧與那國家住宅」が重要文化財(建造物)に指定

生活のインフラづくりを島人の手で

①エネルギー供給



周囲9キロの島、採算度外視
必要だから実現する方法を考えて開始する、
極めてシンプルな発想の事業着想

生活のインフラづくりを島人の手で

② 働く場所の確保



在来種の「フトミゾエビ」
これが育つのなら「車エビ」も育つはずだ！と
陸上養殖のための4池を掘削(工事業者:国場組)

1984年 竹富エビ養殖株式会社創業

歴史を整理！

島を守る＝土地を守る

石垣島在住者(竹富島出身者含む)による土地の買い上げ始まる
(1955年～)

名古屋鉄道、ヤマハリゾート、日本習字連盟等内地企業による土地の買い上げ始まる
(1968年～)

竹富観光開発(株)が以前に購入した土地をまとめて内地企業に転売
(1982年)

(1986年)

上勢頭保氏による土地の買い戻しにより島に土地の権利が戻る

根抵当権が売却されたのを知り、状況を打開するために奔走

2006年3月21日

(2007年～)
南星観光(星野佳路氏+上勢頭保氏 共同代表)によるリゾートホテル計画(現在の星のや竹富島)

2012年
同時開業

竹富島黒潮観光(上間穀氏)がホテルグループ(平安秀昭氏)に運営委託(現在のホテルピースアイランド竹富島)

● コンドイビーチの事業地、競売でRJエステートが購入(一丸秀信氏)リゾートホテル計画(許認可済、未着手)

竹富島を守る会発足
(1958年)

竹富島を生かす会発足
(1971年)

第二次竹富島を守る会発足
(1982年)

第三次竹富島を守る会発足
(2017年)

- 2003 港湾施設「てーどうんかりゆし館」落成、環状線（ガンジュ道）開通
- 2004 竹富診療所 常駐医師として指田勢郎氏着任（3年間）
環境省ビジターセンター「竹富島ゆがふ館」落成
東港浮棧橋供用開始
- 2005 西棧橋 国の登録有形文化財に登録
旧與那國家住宅の主屋が町指定文化財に NPO が補助事業で周囲を整備
- 2006 なごみの塔 国の登録有形文化財に登録
- 2007 竹富島の街並みが「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定
喜宝院蒐集館の生活用具が登録有形民俗文化財に登録
旧與那國家住宅が国の重要文化財（建造物）に指定
- 2010 上勢頭芳徳竹富公民館長就任
- 2012 「星のや竹富島」オープン
「ホテルピースアイランド竹富島」オープン
- 2013 新石垣（南ぬ島）空港開港
- 2019 一般財団法人「竹富島地域自然資産財団」設立 初代理事長上勢頭篤

2013年 新石垣（南ぬ島）空港開港 翌年竹富島年間入込客数 **50万人突破**

八重山圏域客の半数弱が、
石垣港から30分間隔出航、15分で到着する竹富島へ押し寄せた



8月のコンドイビーチ(町指定海水浴場)

コロナ禍前、 インバウンドの主力は台湾からだった

台湾基隆港から出航
一泊2日かけて石垣港
に早朝到着



基隆港に停泊するクルーズ船と、
ターミナルで乗り込みを待つ乗船客

人気メニュー全て備えた 団体対応に優れた業者(島人)が竹富島の観光を牽引 私稼ぐ人、あなた守る人、いつの間にか分離



SNS時代
宣伝も予約
も直接可能



港にはグラスボートもあるため、独自ツアーが可能となり、合計金額での値下げが容易となる

祭事行事は「島の自然」と 「労働・生活」の上に存在している

「農業」の無い島で、オーセンティシティを
どのように伝えることができるのか



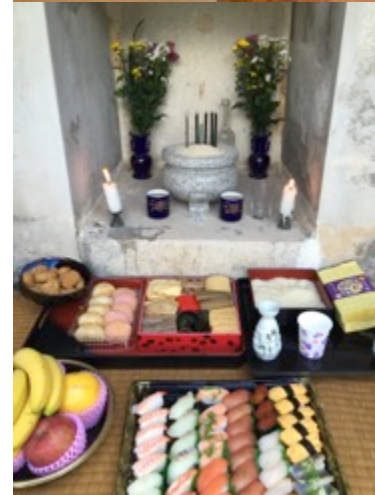
種子取祭



豊年祭



正月



十六日祭

「伝統」を守るとは？

「うづぐみの心」を守るとは？

SNSの影響の大きさ、ネット対策をどうしたら良いか

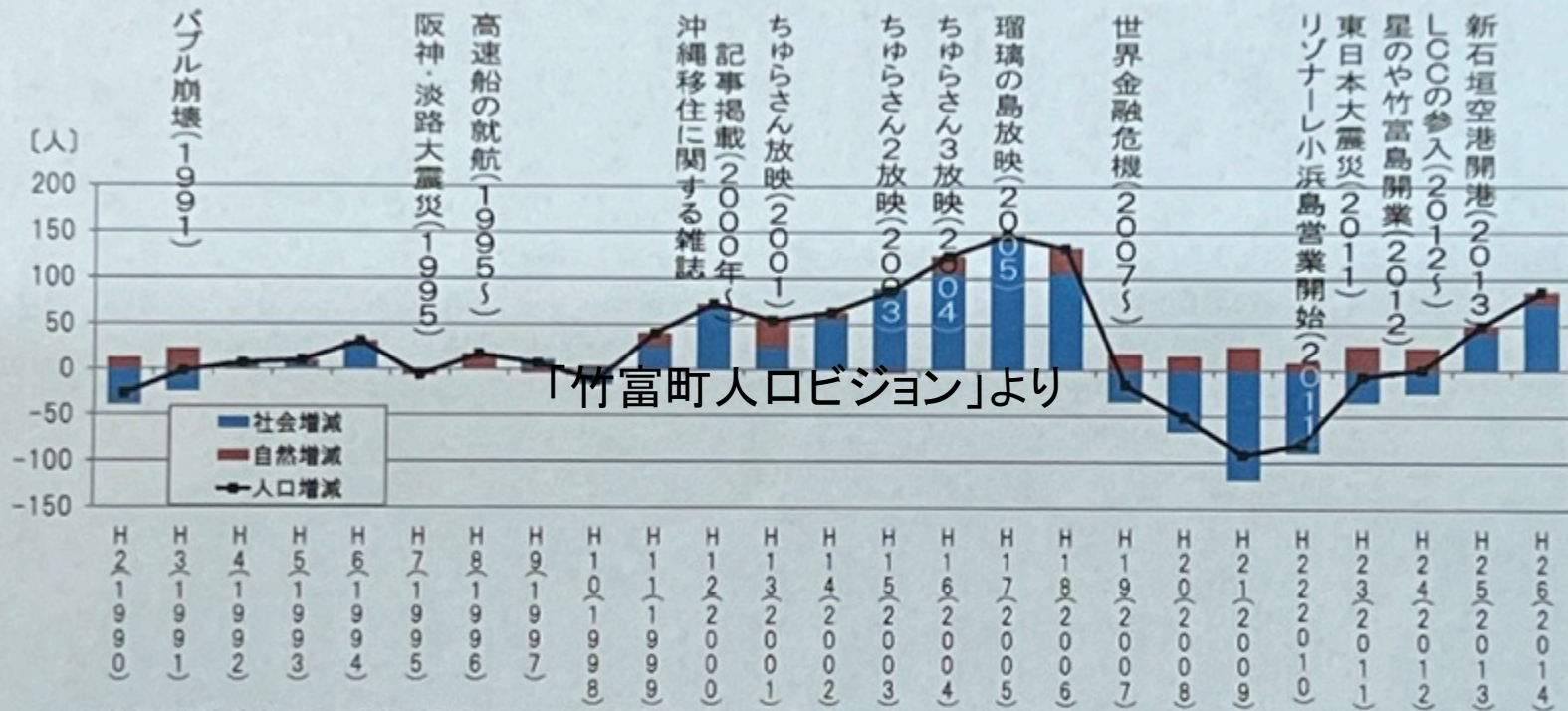


「伝統は我々の生活の中に、仕事の中に
生きてくるものでなければならぬ」

岡本 太郎

近年、島の人口構成の変化が著しい

移住者や血縁関係の無い人口が増加、小さな島での多文化共生は可能なのか
オリジナル文化がリアルでなくなる時



※各年3月末時点の人口動態（平成27(2015)年は平成27年1～3月(2015年1～3月)のデータがないため掲載していない。）

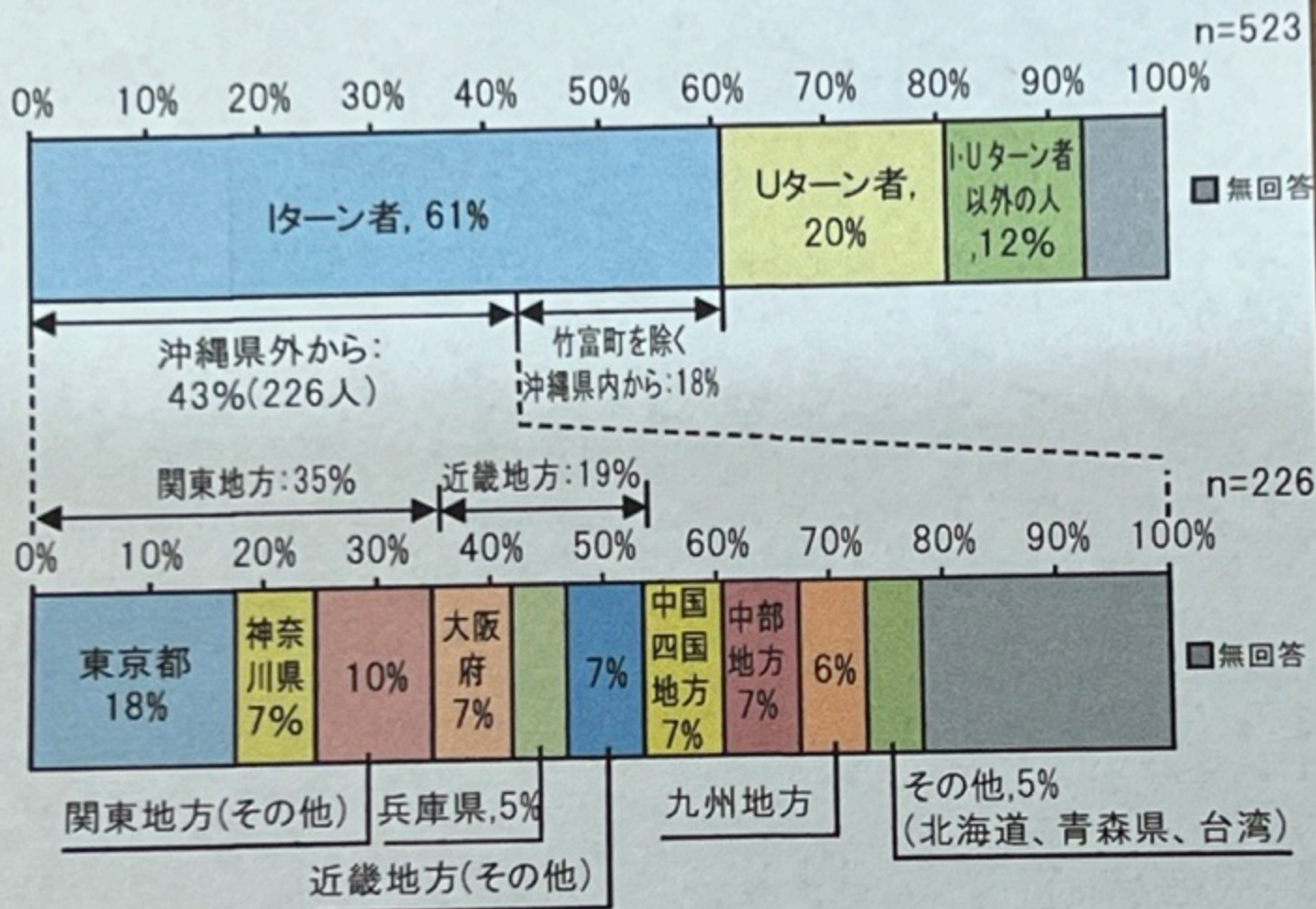
図 2.1-5 人口動態（人口増減、自然増減、社会増減の推移）

出典：「竹富町住民基本台帳」竹富町

「竹富町人口ビジョン」より
竹富町役場HPに全データ掲載されています

7. 移 住

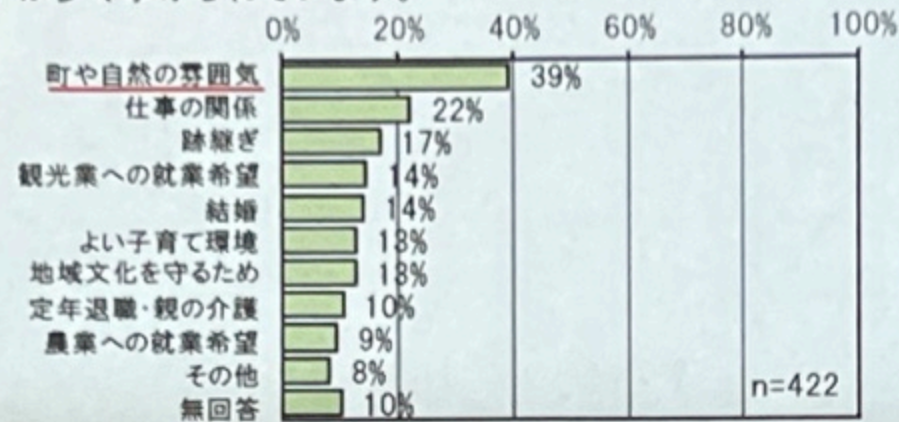
- Iターン者が約6割、Uターン者が約2割です。
- Iターン者は関東地方や近畿地方出身の方が多いです。



参考 1.1-14 回答者の出身地(単一回答)

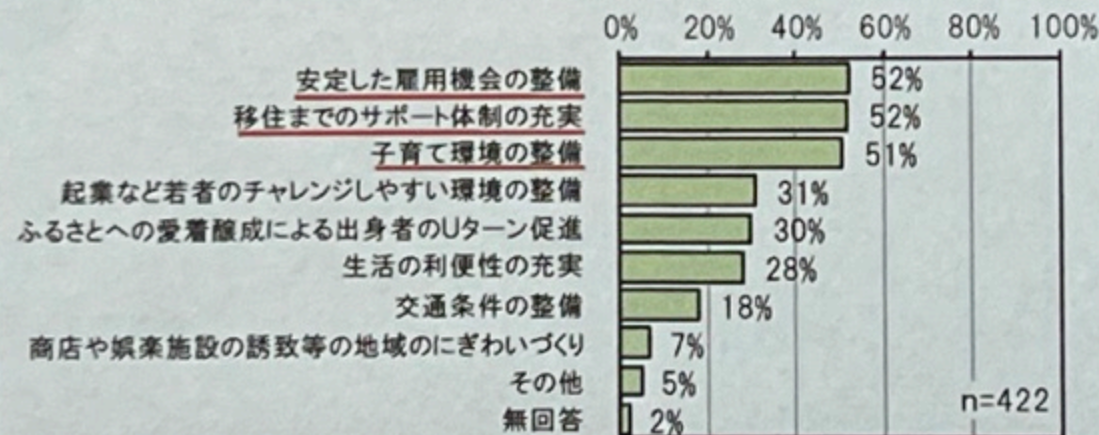
移住者の6割がIターン、が続くとどうなるか...

■ 移住の動機については「町や自然の雰囲気」、「仕事の関係」、「跡継ぎ」が多く挙げられています。



参考 1.1-15 竹富町への移住の動機(複数回答)
※U・Iターン者(422人)が対象

■ 竹富町への転入経験者からみた、転入者の安定的な確保のための取り組みについては、「安定した雇用機会の整備」や「移住までのサポート体制の充実」、「子育て環境の整備」が多く挙げられています。

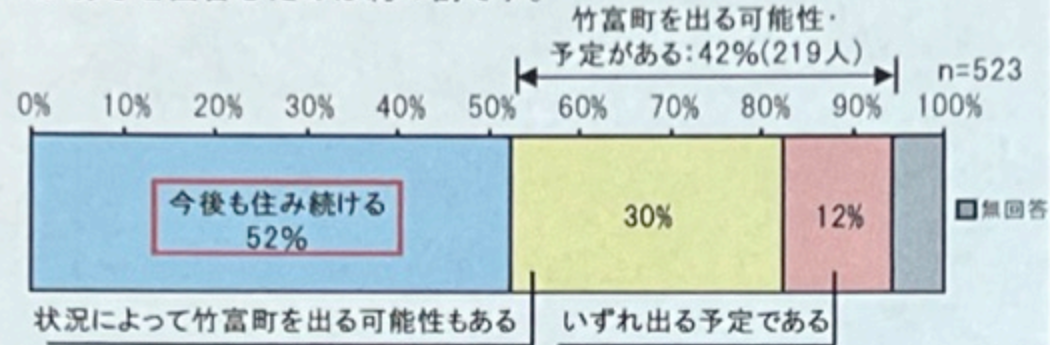


参考 1.1-16 竹富町への転入経験者からみた転入者の安定的確保のための取り組み(複数回答)
※U・Iターン者(422人)が対象

移住動機は「自然」や島の雰囲気、が4割
雇用場所、子育て環境が関心事

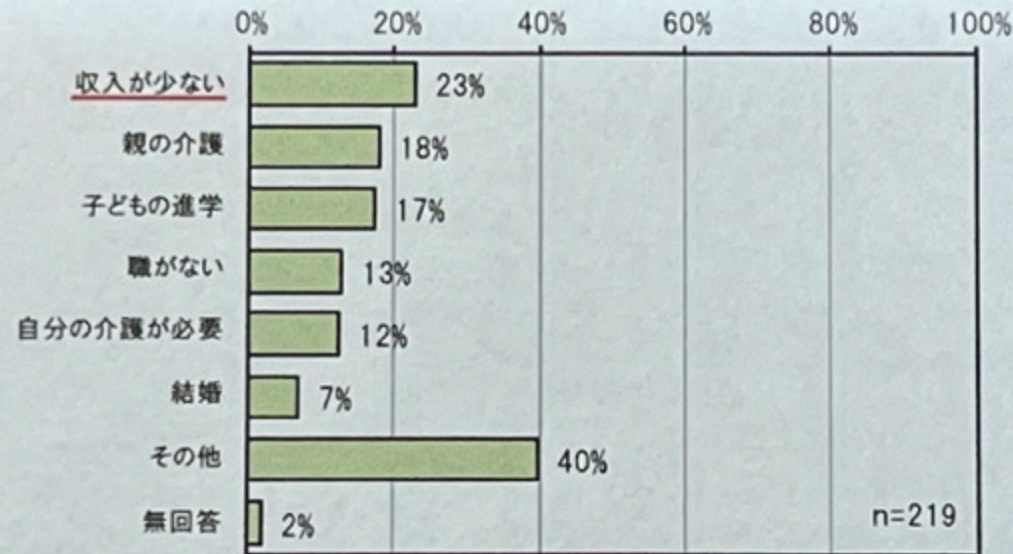
6. 転 出

■ 今後も住み続けるが半数以上いる反面、竹富町から出ていく可能性があると回答したのは約4割です。



参考 1.1-12 今後竹富町に居住する意向(単一回答)

■ 転出理由については、「収入が少ない」が多く挙げられています。



※その他の内訳は、約半数が「仕事・転勤」です。

参考 1.1-13 転出を考えている理由(複数回答)

※竹富町を出る可能性・予定のある人(219人)が対象

「大和嫁」という言葉がある。
 復帰前は、「島が私の生涯の家」という覚悟で来た。
 今は、「私らしく生きられる場所探し」の結果、選んできたという人が増えている。

生涯定住は半分、子供の中学卒業とともに出る人が多い

3. 産業振興

■地域経済の活性化のための取り組みについては、「農畜産物や海産物の加工・農業振興」、「自然、文化を利用した観光産業振興」が多く挙げられています。

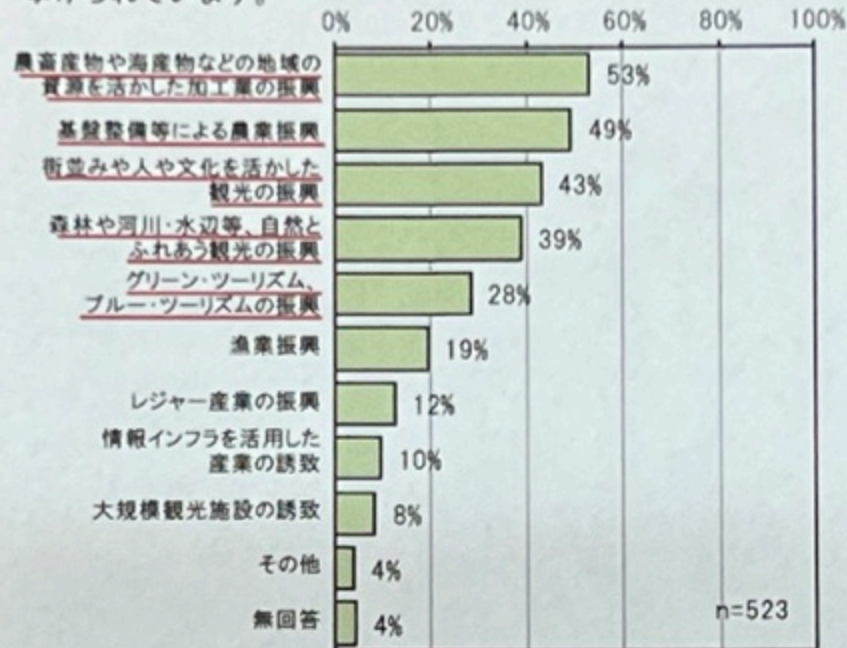
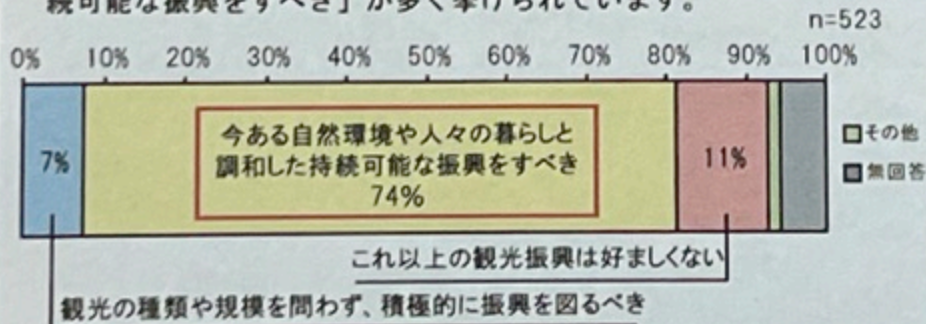


図 1.1-4 地域経済活性化のための取り組み(複数回答)

■観光産業の振興については、「自然環境や人々の暮らしと調和した持続可能な振興をすべき」が多く挙げられています。



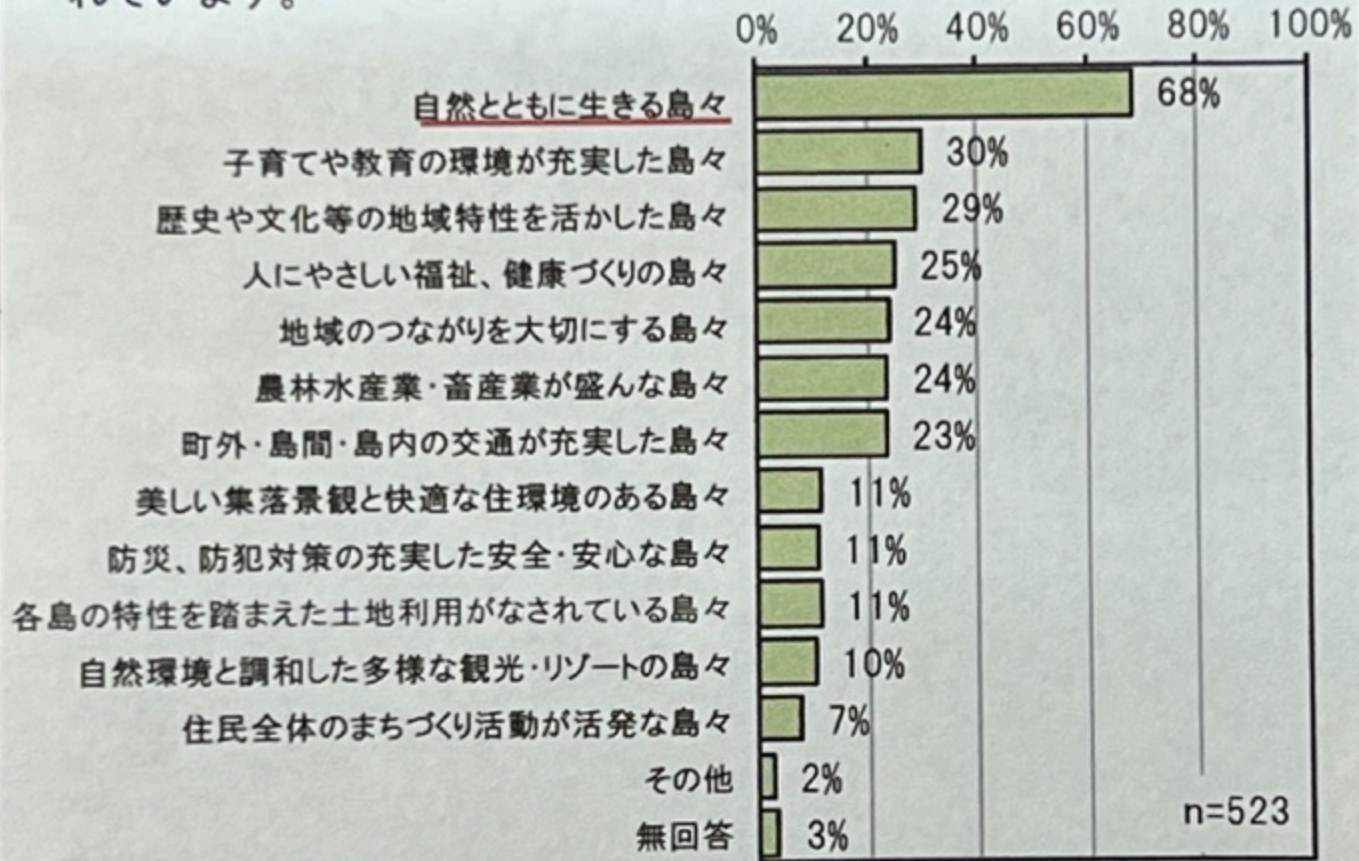
参考 1.1-5 観光産業振興に対する考え方(単一回答)

「今ある自然環境や時代」、
その「今」が移住年代で差が出てきている。

ネット環境の整備が進み、都会の考え方そのままを、
島に持ち込んで生活をする事が可能になってきた。
リアルな自然は、簡単にリセット出来ないのだが...

5. 地域づくり（2）

■地域の将来像については、「自然とともに生きる島々」が多く挙げられています。



参考 1.1-11 地域の将来像（複数回答）

生の自然に囲まれて暮らすと、
いつの間にか、神や人について考えてしまう。
近年は、感じない人たちも増えてきたような……

未来へ 環境省との取り組み

遺産管理型NPO法人たきどうんが運営受託
NPO認証から来年で20年！



ビジターセンター「竹富島ゆがふ館」
2004年開館



NPOの継承活動「庭の日」
ティーワザ(手技)講座開催

星野リゾートとの取り組み

サステナブルに**共尊共栄**の時代を開くチャレンジ開始



海水の淡水化装置
電源は太陽光発電
離島用にパッケージ化



問題は島の中だけで起きているわけではない

近年ますます激しくなる「気候変動」

ここ6年石西礁湖への超大型台風の直撃が全く無い

海水がかき混ぜられずに水温が下がらない



ますます進む竹富島沖の珊瑚の白化現象
共同通信写真提供(2021年4月8日調査同行、案内)

流れる

流される

ふみとどまる

深呼吸

再び、漕ぎ出す

竹富島のまち(島)づくり